

月刊 財界人 10

トップ
インタビュー

新しい公社の創造を

生まれ変わりつつある郵政3事業

日本郵政公社社長 牛田正治



沈黙の業界がよみがえる時

直撃

郵政公社社長 牛田正治 鈴木政徳

広瀬隆OB物語

2010年10月号 10月号

環境循環型ハイドロ緑化システムとは・

- ビル内外の植物交換で季節感をオフィス内で味わうことが出来る。
スカイファームで育てた植物を室内に移動することにより春夏秋冬をオフィスの中で感じることが出来る。
- 近くに在住の「グリーンレディ」の派遣
近くに住んでいる有資格者を派遣することで、車を極力使わない移動が出来る。メンテナンス及び植物交換がビル内ですべて出来るため効率が上がる。
- 自社ビルのファーム化
事例化された「屋上緑化」の実現。
- 地域重視のメンテナンス・隣接するビルへの植物循環
植物メンテナンスの最適な対応が可能なら近隣ビルへの室内外植物の移動循環が容易になる。
- 植物の環境循環
・コンポネントシステム
・コンテナ植栽
・パレットシステム
- 植栽デザイン・メンテナンス作業のビル内循環



大林社長の著書『Eco Green 室内・ベランダのガーデニング』(講談社/1700円+税)

少々専門的な説明になるが、「ハイドロカルチャー」は環境先進国ドイツで生まれた栽培法で、土に代わる植え込み材料として「レカトン」という粘土を1200℃で発泡焼成した発泡煉石や、最近では「ネオコール」という木炭の粉をセラミックで固めた粒状の石を利用し、植物と炭の効用を併せた商品を開発している。これらは何度でも洗い再利用できる「エコロジー用土」の商品化に成功したのである。

「植込材料がエコロジー用

土であるため環境浄化的にもリサイクル的にも良く、また空気と水分を理想的に持つっており鉢の底面に水を溜められるなど各種メリットも多い」と大林社長は力説する。従来の都市緑化の弱点と問題点を見事に解決する発想をビジネスに導いた氏の行動力に脱帽。

さらに、大林社長はこう付け加える。

「これからの都市緑化には地域の主婦、高齢者、ハンディーを持った方々が植物を元気にする仕事であるメンテナンスを積極的に行うことが園芸療法にもなり、経済的視点からも重要だ」

これらの体制を支援するため、植物メンテナンスのスクールを今春より開始した。

カギは企業との「コラボレーション」

大林社長は「これから都市緑化を推進するためには、花、植木の生産農家、関連業者、企業とのコラボレーションが重要で、国や地域行政にも支援してもらわなければならない」と言う。

施設園芸生産者の3代目である大林社長は、愛知県豊橋市にある農場

都市緑化 新発想の都市緑化ビジネス 推進企業 独自のシステムで従来の弱点と問題点を解決！

プラネット社長 大林修一

環境創造ビジネス 「都市緑化」

環境ビジネスに多くの企業が参入しているが、都市緑化業界において大林修一社長の株式会社プラネットは「環境創造ビジネス」とりわけ「都市緑化」に新しい発想と将来の地球環境を見据えた企業として注目されている。「自然と人間を共生実現」させるのが環境創造企業の役割であり、「都市の緑化推進」は従来、経済効率を重視するがため都会のビルや商業施設などにおいては、幾分おざなりにされていた。

これら環境貢献分野として今、注目されているプラネットは2年前に環境ISO14001の認証取得もしており、都市緑化に携わる従来の造園業、植物レンタル業の枠を越え、この業界の環境への問題解決に先駆けた開発を進めている。「緑化」が人間と環境に与える効果は世界の専門学者、研究者により発表され、近年一般認識も高まりつつある。

都市緑化で懸念される問題点に対応

緑化は各種の環境貢献分野であるが、その一方で環境上の問題も懸念されている。植物は水と肥料を吸収して育つが、屋上緑化では特に夏、旺盛に要求される。その際、湯水時の水問題、富栄養化、リン酸問題のある肥料、残留性のある農薬等の排水による流出問題がある。これらについてもプラネットは雨水貯水機能も備え、水、肥料、農薬を最小限に



大林修一 社長

抑えた独自のシステムを持つ。室内緑化では、一般に植物レンタルによる置き鉢が多い。その定期交換は通常ディーゼルトラックにより行われており、排ガス、排熱による都市部のヒートアイランド現象を助長することになる。また、交換による植物の環境変化もあり、植物劣化による植物残渣、土、肥料の廃棄物問題も懸念される。また、交換システムにコストの半分以上を要しているという実態もある。

この点もプラネットは、メンテナンスを重視した土を使わないハイドロカルチャーシステムの植物レンタルにより、それら環境問題を最小限に抑えた経済的なシステムを展開している。

環境循環型ハイドロ緑化システム

プラネットはこの逆風を新しい発想でとらえ、植物メンテナンスの低

コスト化、空気清浄機能を高め、廃棄物等の環境問題を最小限にする「環境循環型ハイドロ緑化システム」の開発で期待されている。このシステムは長年培ってきた室内緑化、レンタル、及び屋上・壁面緑化を結びつけるというもの。屋上はスカイファーム(農場)化し、ビル内及び近隣ビル内外の植物と循環させることにより、環境的にも経済的にもメリットを出したものである。また、屋上で咲いた花や実、紅葉した植物等を室内でも楽しみ、適期が過ぎたら屋上に上げ養生させるという循環により、室内でも四季を味わえるというメリットもある。

また、屋上を装飾された農場とし、景観も大切に考えている。これら植物メンテナンス及び循環業務は、植物好きな地域住民が行うという体制をも作っている。それを独自のハイドロカルチャーシステムにより実現している。

と東京、名古屋、大阪にある営業拠点を頻りに回っている。植物メーカーとして、農業分野は従来生産部門業務しか行わなかった。しかし、商品開発、営業、広告宣伝部門等も消費拡大には必要と成功事例作りにより東奔西走している。環境条件の悪い都市緑化で植物を元気に育てるためには、植物生産者のノウハウを活かすことが重要なポイントだろう。しかし、「営業展開では他の企業との連携が必要」という。

大林社長は最後に、「緑化は人に優しく地球に優しくする大切な役割を持っていきます。ですから全国にプラネットの事業を広めるのが夢、という大きな使命感を持って次なるステップに挑戦したい」と結んだ。

株式会社プラネット

代表取締役社長/大林修一
本社/東京都渋谷区神宮前6-19-14
神宮前ハッピービル7F
TEL/03-5469-0590 FAX/03-5469-0591
post@g-planet.com
http://www.g-planet.com/
http://www.rakuten.co.jp/floristsplanet/

業務内容◆各種植物の生産/ハイドロカルチャーによる室内緑化の設計・施工/屋上・壁面・広告、水面緑化の設計・施工/雨水貯水型コンポガーデンシステム/植物空気浄化システム(特許申請済)/ハニカムデザイン/薄層緑化システム(実用新案申請済)/植物のレンタル